

## 古着の山に登つた日



愛本 国

「こんなところで、なぜ」。タ

イに来てから、街中で日本語の

社のユニホーム。タイ人が着ていて違和感は

あるが、どこかほほ笑ましい。

調べると、タイの首都バンコクは、世界中の古着

が集まる東南アジア有数の拠点と言われ、「ユーズド・イン・ジャパン」の古着も多いという。2024年の財務省の貿易統計を見ると、日本からタイに約90000点の古着が輸出されていた。

そこで25年7月、バンコクの古着市場として有名な、「パタウイコン市場」を訪ねてみた。  
服、服、服……。所狭しと積み上がる古着の山の前で、客たちが服をかごに入れていた。1着5~20バーツ（約25~100円）程度。中には3ドルほどの高さまで積まれた山に登り、探す人もいる。私も許可を得て登つてみた。足元には半袖、長袖、ジーンズ、スカーフ……。全て日本からの古着だった。

山の上で男性客に話しかけると、近くで古着店を営んでおり「ここで仕入れて10倍の値段で売る」のだという。男性は「日本の服は質が良くて、よく売れる」と言い、特にユニクロやGUなど、有名な日系ブランドの服を探していると語った。

店番の50代女性によると、この店は日本の古着のみを扱っており、毎日のようすに東部の港から荷台いっぱいに積んだトラックが来るという。客の多くは古着店のバイヤーで、日本の古着人気によって売り上げも順調という。「日本では着られなくとも、タイではまだまだ着られる」。売れ残った服を定期的に、地方の貧困地域へ無償配布もしているという。「エコだなあ」。そう感心しながら周囲を眺めていたが、ふと、先ほどの男性客が、何度も服を手に取つては戻し、選ぶのに時間をかけていて気に気づいた。よく見ると、毛玉や汚れが目立つ服や、常夏のタイでは使われなさそうな冬服を戻していた。

服の山の全てが、再び誰かに着られるわけではなさそうだ。いずれ「ごみの山」になってしまう光景も、一瞬頭をよぎった。輸送時の船舶による二酸化炭素( $\text{CO}_2$ )排出も考えると、もう手放しで「エコ」とは言えなくなってしまった。